

令和5年度 山形県立長井高等学校 学校評価書(自己評価・学校関係者評価)

スクール ミッション	創立以来受け継がれてきた「万物我に備はる」の校訓のもと、地域のリーダーを輩出してきた歴史と伝統ある普通科高等学校として、挑戦し続ける高い志と探究心を持ち、高い知性と豊かな情操、健全な心身を兼ね備えた、地域と地球に貢献する有為な人材を育成します。		教育 目標	(1) 健全な心身と挑戦し続ける高い志の育成。 (2) 高い知性と豊かな情操の育成。 (3) 社会の有為な形成者となるための諸能力の育成。			教育 方針	(1) 生徒の初志を大切にし、その目標達成を目指す。 (2) 自律的・積極的な生活態度の育成と個性の伸長をはかる。 (3) 生徒各自の意思を尊重し、きめ細やかな指導を旨とする。 (4) 時代に即した教育活動を実践する。	
自己評価				左から 教員・生徒・保護者・総合の評価 □文字：昨年度評価より向上 網掛け文字：昨年度より評価低下				学校関係者評価	
年度目標			年度評価(令和5年2月3日現在)					実施日：令和6年2月20日	
重点目標	具体的方策	評価項目	達成度				昨年	課 題	自己評価に対する評価
			教	生	保	総			
1. 自他の存在や生き方を尊重し、自立的・積極的に行動する態度の育成	①様々な教育活動を通し、豊かなことと望ましい人間関係を構築する。 ②自ら考え、判断し、変化や困難にも柔軟かつ的確に対応できる力を育成する。 ③部活動や生徒会活動などの主体的な活動を促進する。 ④家庭や地域と連携し、共通理解を図り、生活習慣や規範意識を確立する。	人間関係形成能力の育成(1) 主体的な判断力・適応力の育成(2) 主体性を育む部活動・生徒会活動の充実(3) 基本的生活習慣と規範意識の確立(4) 組織的な指導(5)	A	A	A	A	A	・生徒自身がが時代の変化に対応できる人間力を向上させるのための講演会を実施。 ・ <u>生徒の主体性を育む諸活動の推進とリーダーの育成。</u> ・生徒会執行部を中心とした生徒による自治活動の更なる推進。 ・生徒の生活実態の掌握と効果的な生徒面談や教育相談の実施。	・他の重点項目より高い評価であるが、学びに関する「主体的な判断力・適応力の育成」は中学校でも課題としており、この地域の子供たち全体の課題かと思う。 ・生徒・教員・保護者の評価に差があるので、分析と目指す姿の共有が必要である。 ・コロナ感染症の5類移行で部活動への取り組みが活発になったと思う。失敗の経験を含め勉学とのバランスを取りながら進めていただきたい。 ・生徒は先生とのコミュニケーション不足を感じている。また、生徒が「自分で考え行動する」点で先生の評価ポイントが年々低下しているのが気になる。生徒への組織的な対応の指導について、具体的な検証を願う。 ・他人の存在の生き方を尊重する評価内容が曖昧なので、「他人意見を尊重している」等の具体的評価内容を追加してはどうか。 ・部活動が忙しすぎるとの意見があるが、学校としてどうとらえているか。また、月単位学校行事予定の閲覧希望の保護者もあり、学校と連携するうえで大切ではないか。 ・全体的に良いと思う。生徒が完全燃焼する高校生活が出来るようお願いする。
2. 「習得」「活用」「探究」による「確かな学力」の育成	①授業力向上に努め、「わかる授業」の徹底と、意欲・関心の喚起に努める。 ②基礎学力の向上と応用力の伸長とともに、それらを活用する力を育成する。 ③探究型学習を推進し、自ら学び主体的に課題を解決していく力を育成する。 ④図書館を有効利用し、読書や幅広い学習活動の促進に努める。	授業改善(1) 教科と年次等分掌間の連携(2) 基礎学力の定着(3) 個に応じた指導と家庭学習の充実(4) 主体的な学び(5) 図書館の活用と読育(6)	A	A	B	A	B	・自律した学習者の育成。 ・生徒の思考力・判断力を高め適切な授業と評価の一体化を目指す。 ・ICT を利用し生徒の1人1台端末を利用した授業の研究。 ・探究活動での外部人材の活用。 ・ <u>読書の推進と、活用される図書館としての機能の充実。</u>	・授業について教員と生徒が A 評価であることは、共に授業を創造する意識の表れかと思う。読書離れは、進学校ゆえに時間がないかもしれないが、読む力そのものや理解する力は必要である。 ・先生方が授業改善等に力を注ぎ、生徒も呼応しているように感じる。保護者に伝わっていないのが残念である。図書館利用は、学校だけでなく市立図書館の利用が増えれば促進させていると考えても良いとは思ふ。 ・先生の自己評価の「十分」のみの評価で、「基礎学力の定着」「生徒の主体的な学習育成」「家庭学習に指導の充実」が年々低下している。対策が必要ではないか。 ・本校にとって最も重要な項目と捉えている。生徒の能力差を踏まえ、どのレベルで日々の授業等を行っていくのか先生方と保護者で話し合って検討すべきだと思う。 ・ICT ツールの活用方法と生徒が自ら取り組みたくなる工夫はどのようなものか。 ・読書の減少が気になる。今後はさらに言語力の必要性が増す時代だと思う。
3. 広い視野と高い志を持ち、自己実現を図る態度の育成	①3年間を見通し、計画的・系統的なキャリア教育を推進する。 ②一人ひとりを大切にし、個に応じたきめ細やかな指導に努める。 ③新しい大学入試制度を踏まえた教科指導、進路指導の研究を深める。 ④生徒の果敢に挑戦する意欲と学び続ける態度の育成に努める。	キャリア教育の推進と分掌間の連携強化(1) 個に応じた進路指導体制の確立(2) 積極的な進路情報の提供(3) 自己実現のための環境作り(4)	A	A	B	A	B	・各コースの特性を活かした進路指導のあり方の検討。 ・計画的な個別面談の充実と家庭への進路情報の提供。 ・ <u>総合型・学校推薦型の定員増加に対応した進路指導の実践。</u> ・大学見学会や外部講師による進路講演会の効果的な活用。	・一貫したキャリア形成が図られるよう中学生の長井高校訪問は今後も継続を願う。 ・学校推薦型の定員増加は非常に興味深い。生徒への個に応じた指導がさらに必要と思われる。1,2 年次から生徒と保護者に情報提供し、自分の将来のことを各自考えさせるように仕向けていただきたい。 ・先生の自己評価の「十分」のみの評価では、「キャリア教育の組織的関与」「新入試制度を意識した指導の実践」が年々低下している。保護者の評価で、情報が十分に届いていないことと関係するのではないか。 ・アンケートの質問事項と、重点項目3の内容が乖離しているように思う。 ・生徒の意見で、国公立大学受験が前提となる話が多いとあるが、本当であるか。 ・選択肢、情報量ともに多い世の中で大変ですが、良く対応していただいていると思う。現在は大学生で起業することもある世の中なので、さらに上を目指してほしい。
4. 開かれた学校づくりと地域社会とつながる態度の育成	①ボランティア活動など、地域社会に積極的に参画する活動を促進する。 ②地域の伝統・文化や課題などについて考え、理解を深める学習の充実に努める。 ③ホームページを活用し、本校の取組や教育活動を積極的に発信する。 ④地域の期待や学校評価をもとに、教育活動の継続的な改善を図る。	ボランティア・社会参加活動の推進(1) 地域学習と地域貢献の推進(2) 通信や会報の活用(3) 学校評価のフィードバック(4)	C	C	D	C	D	・ <u>積極的なボランティア活動、地域貢献活動の推進。</u> ・ホームページ、学校連絡メールの活用方法の研究と本校諸活動の積極的な広報。 ・探究活動等における地域の組織・人材の活用。	・評価は、どこに軸を置き、どこまで求めるか検討が必要である。また、探究学習については、学校全体でかなり取り組まれている印象を持っている。 ・ボランティア活動や地域とのかかわりが増えてきたのがわかる。諸活動全てがコロナ禍前に戻ることは難しいので、徐々に活動を広げてほしい。 ・探究活動等の積極的な取組みの成果で、生徒の「地域の諸活動への積極的参加」の評価が上昇している。高校でのボランティア活動の意義を検討すべきである。 ・生徒および保護者の評価ともに低く、意見も否定的な意見が目立つ。具体的改善策が必要である。改善策として部活動単位で年1～2回の活動実践はどうか。 ・ボランティア活動の参加については、できなくても仕方ないことかと思う。生徒保護者への連絡体制について、紙とデジタルでの配付基準を明確にしてはどうか。 ・部活動の試合や発表会の日程が、卒業生もわかるようにすると OB と連携でき、地域と繋がるのではないか。また、地元企業と連携して課題解決学習をしてほしい。
達成度	A(達成): アンケート結果の1+2評価が90%以上		B(概ね達成): アンケート結果の1+2評価が70～89%				C(やや不十分): アンケート結果の1+2評価が50～69%		D(不十分): アンケート結果の1+2評価が50%未満

※自己評価は、今年度の重点目標の具体的方策についての達成度について、教員・生徒・保護者のアンケート調査を実施し、「1:十分である、2:まあまあ、3:やや足りない、4:足りない」の4段階で評価した結果です。